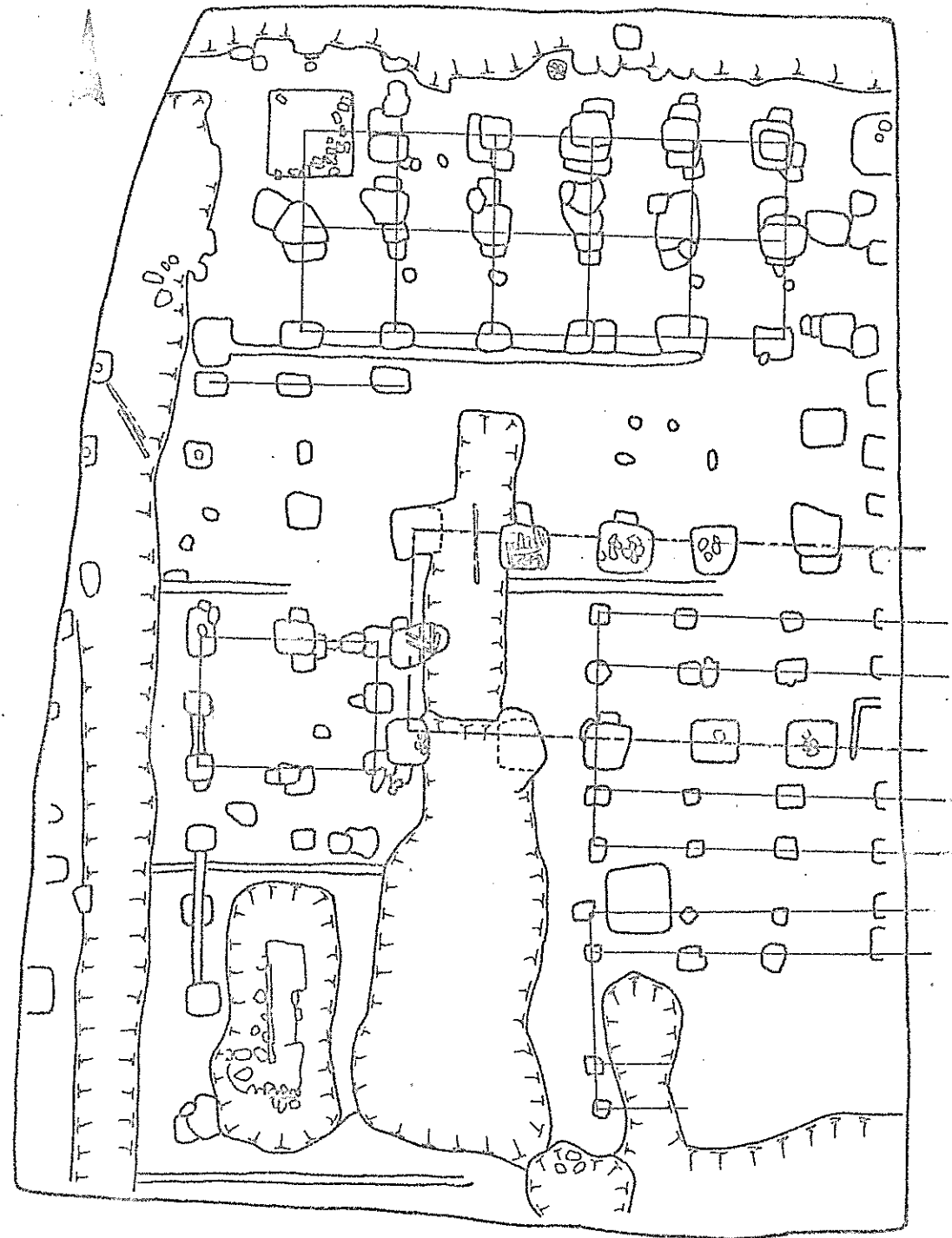


阿彌陀浄土院跡発掘遺構略図

1972.11.6~



0 10m

法華寺阿彌陀浄土院年表

天平三年(五五五)五月

この頃 法華寺の西南隅に阿彌陀浄土院の造営を始む。

四年(五五六)十月

この頃 造営終了。

五年(五五七)六月

阿彌陀浄土院におこなう光明皇太后の一周忌齋を行ない、また毎年の忌母齋会の料として、京南の田十町を法華寺に施入す。

八年(五六〇)

この頃 文室真人浄三、法華寺大鎮として浄土院別当として在任。

延暦二十年(八〇二)

僧護命、法華寺浄土院において涅槃經を講じ、菩薩戒を授く。

鎌倉中期(十三世紀半ば)

「法華戒罪寺縁起」に、この頃浄土院が完全に廃絶しており、本尊以下の仏像は法華寺講堂に安置されていたと記す。

浄土院発掘用電線工事に伴う出土木簡

〔表〕 坤宮官縫殿出米参斗

〔后五〕 薪買

(6011型式)

〔裏〕 遣如件 五月廿八日 舍人池後小束人

〔備考〕

坤宮官は紫微中台の改称。天平宝字二、五年に存在した。

